

冬のアーケード装飾 『四条 洛中洛外雲海図』



【二十四節気をテーマとした発光色の変化】



四条通にて毎年恒例になっている冬のアーケード装飾。京都の人々の暮らしや風俗が色濃く描かれた「洛中洛外図」からインスピアされた、様々な色に発光する雲形の導光板「光る雲パネル」を四条通のアーケード下約1km(烏丸通～四条大橋西詰 の南北両側)に連続的に吊り下げ、四条通を行き交うお客様も巻き込んだ形で「立体洛中洛外図」を疑似的に演出します。掲出期間を前期と後期の2期に分け、「光る雲パネル」の色や点灯パターンを変化させ、季節の移ろいや京都ならではの華やぎを表現します。今年は洛中洛外図に描かれる町人や芸人など、そこに生活する人々の姿をパネルで追加表現。四条通でしか見られない格式あるアートをお楽しみ下さい。



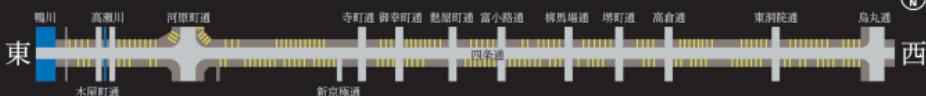
【洛中洛外図】

京都の市街（洛中）と郊外（洛外）の景観や風俗を高い視点から見下ろして描いた屏風絵。16世紀初頭から江戸時代にかけて数多く制作された。天から鳥瞰された図の背景には、御所（皇居）をはじめ貴族や武家の御殿、名高い寺社、観光名所をとりあげて、そこに暮らす当時の京都の人々や風俗が色濃く描かれており、これらは美術的な価値だけでなく歴史などさまざまな分野でも高い資料的価値をもつ。

【アートプロデュース】 高橋匡太 (たかはし きょうた)

1970年京都生まれ。1995年京都府立芸術文化大学大学院美術研究科修了。美術評論家。 光や映像によるプロジェクト「クリプト」、インスタレーション、パフォーマンス公演など幅広く国内外で活動を行う。東京駅、100周年記念タブレット、京都～奈良、十和田市現代美術館など、建築物のラッピングプロジェクトや、「夢たのむプロジェクト」、「ひかりの花園」、「ひかりの花園」、「Glow with City Project」など大規模な実験的アートプロジェクトを数多く手がけている。2021年にリニューアルオープンした「京都市美術館」の外観照明の演出にも携わる。

…雲パネル吊り位置



令和5年10月29日(日)～令和6年1月31日(水)

◎前期 令和5年10月29日(日)～同年12月25日(月)

◎後期 令和5年12月26日(火)～令和6年1月31日(水)